

〔和漢三才圖會支體十二面略〇中

頤音怡 頤中也、釋名云、頤養也、動於下、應於上、上下咀物、以養人者也、頤音舍同、和名於止加比、

〔倭訓栞於中編三十〕おとがひ 和名抄に頤をよめり、靈異記に頤新撰字鏡に頤、又朧をよみ、全浙兵

制に地閣を譯す、音のつがひの義成べし、俗に口をきくを頤を鼓タくといへり、〇中 おとがひで蠅

逐といふ諺あり、賈子新書に、頤指而如意とみゆ、おとがひのかきかねのはづる、を頤車蹉とい

へり、

〔塵塚物語五〕赤松律師兵書之事〇中

一おとがひと手の脈を一度にうかゞふに、和合して同じやうにうつは吉ちがいたるはいむべ

し、是を生死兩舌の氣といへり、

〔增補下學集支體上二、ヤラトケヒ〕鎗頤

〔倭訓栞中編五〕きばね 倭名鈔に頤骨をよめり、牙車ともいへば、牙骨キの義成べし、

〔倭名類聚抄三〕腭 唐韻云、腭音夢、字亦作、口中上腭也、

〔箋注倭名類聚抄鼻二〕按腭與廣韻合、今俗呼宇波阿吳、〇中 廣韻作腭、云口中斷腭出字統、腭上同

龍龕手鑑、腭俗、正作齶、此從肉從俗寫也、依廣韻、上腭似斷腭之誤、然慧琳音義引考聲云、口中上腭

也、與此合、孫氏蓋依之、今不徑改、韻會亦云、齶通作鄂、口中上鄂也、

〔伊呂波字類抄安人體〕腭アキ、齶、

〔下學集支體上二、アキ、〕腮

〔和漢三才圖會支體十二、齶音〕腭 鄂並同 和名阿岐俗云阿吾

按、齶、齒内上下肉也、齶、齒莖也、齶腫者曰齶音去

〔倭名類聚抄三〕頭面、頤 陸詞切韻云、頤冷反、頤也、頤居井反、和名久比、頭莖也、